

緑の基金へ善意の寄付

組合員らの篤志届ける

県交安施設協



目録を受け取る白石専務(左)木内副理事長、黒川理事長

県交通安全施設業協同組合(黒川恵史理事長)は17日、組合員から募った善意を「緑の基金」に

寄贈した。今年6月と10月に開催した組合員によるチャリティーゴルフコンペで募った篤志を合わせたもので、同組合事務所を訪れた県緑化推進委員会(理事長・森英介衆議院議員)の白石勇一専務理事兼事務局長に対し、組合から目録が手渡された。

この中で白石専務は、恒例となった善意の寄付に感謝の言葉を述べるなどしながら、県緑化推進委員会について「公共施設の緑化や緑の整備など募金を原資としてさまざまな事業を展開している。県交通安全施設業協同組合の皆さんには例年たくさんの方の寄付をいただいている。頂いた募金はこれからぜひ活用させていただきたい」と重ねて謝意を示していた。

業に伴う優良工事や木材使用工事の優良事例といったコンクール開催や表彰、情報誌の配布や案内板標識、県産間伐材使用の木製品の設置などを通じた普及啓発活動を進めている。

当日は組合を代表し、黒川理事長のほか、チャリティーゴルフの実行委員長を務めた木内清副理事長らが出迎え。県緑化推進委員会からは白石専務と飯田英徳主査が来訪し、篤志の受領とともに互いの活動内容などについて意見が交わされるなどした。

これに対し黒川理事長も「来年度も引き続き募金を継続したいと考えている」と、募金活動を継続する考えを示したほか、木内副理事長も今回の寄付に至った経緯を説明する

「緑の基金」は春と秋の年2回、強調期間を設けて実施しており、現在は秋季の運動(9月1日~10月31日)の期間中。企業や団体による募金、イベント募金などについて特に注力しているという。

募金活動だけでなく、林野公共事業の施策の充実や事業要望や、治山林道事業の安全で効率的な施工技術の向上や知識の習得を図るための技術講習会の開催、治山林道事

業に伴う優良工事や木材使用工事の優良事例といったコンクール開催や表彰、情報誌の配布や案内板標識、県産間伐材使用の木製品の設置などを通じた普及啓発活動を進めている。

県交通安全施設業協同組合の募金については、組合員に対しての福利厚生事業として、春・秋に開かれたチャリティーゴルフコンペで集められたもの。同組合では例年春と秋の年2回、親睦交流などの機会を捉えて組合員から募った篤志を寄付しており、これまでも千葉県団体などの開催に向けた「チーバくん募金」への4回のほか、23年春には県に対して東日本大震災への義援金を贈呈した。緑の基金に対しても、23年秋から継続するなどしており、今回の寄付で延べ19回目を数えている。